



今年もやります、「科学の芽」賞!

附属学校教育局 教授 小林 汎

朝永振一郎博士の生誕100周年記念事業の一環として始まった「科学の芽」賞は、今年で5回目を迎えます。他大学にはあまり見られない筑波大学独自の青少年向けの事業は、子どもたちの「科学の芽」を育て、理科教育の発展に寄与するとともに、未来のノーベル賞受賞者の裾野を広げる事業としても定着してきました。最近では国内だけでなく、海外からの応募もあり、昨年度はフランクフルトの日本人学校からの応募作品が受賞しました。昨年は1,158件の応募がありましたが、全国各地の子どもたちからの応募はもちろん世界各地からの応募があるような国際的な事業に発展させたいものです。

今年も、12月18日(土)に、筑波大学の大会館で表彰式・発表会を行います。日程の関係で、多少クリスマスには早いのですが、受賞した子どもたちへの大学からの「クリスマスプレゼント」の意味合いを込めて、この時期に行っています。毎年、この発表会での受賞者の皆さんのプレゼンテーションは、学長始め大学関係者がとても楽しみにしています。子どもたちの豊かな発想、思いもよらないアイデア、大学生顔負けの立派な発表の仕方等々が、大人の研究者がともすると忘れていた研究の原点を思い出させてくれるからです。

また、今年、『もっと知りたい!「科学の芽」の世界』(筑波大学出版会)のPART2を6月末に出版します。第3回と第4回の受賞作品を中心に作成した本です。前回の第1回と第2回の作品をまとめたものとは、また一味違う素敵な受賞作品集!「IMAGINE THE FUTURE」をデザインする筑波大学の本ですので、是非ともお読みください。



《編集後記》

近年、早く咲いてしまうために卒業式にみえていた桜が、今年は入学式まで保ってくれました。「入学式は桜がなきゃ…」とまでのこだわりはありませんでしたが、やはり入学式に桜があるといいものです。久々にみると、新入学の子ども達の、期待と不安に満ちて紅潮した頬に、桜は実に良く映えます。万感の思いで入学式をむかえた親御さんとの記念写真にも、やはり桜は重要なアイテムです。入学式という新たな学校生活のスタートを象徴する桜ではありますが、ここにたどりつくまでの多くの苦難や思いを糧に花開くもの、とみることもできそうです。実際、寒い時期がないと咲かないそうですから。さて、筑波大学の附属学校も多くの革新的な取り組みに専念してまいりました。そろそろ、それら試みの結果が花となって現れている頃ではないかと思えます。…大輪の花となった取り組みもあれば、あえなく散り去ったもの、まだまだつぼみのもの…どんな花となったか、これまでの取り組みの成果をふりかえる時期がきているのではないかと考えたいと思います。(田中輝美)



vol.18

発行日……平成22(2010)年5月31日
発行者……附属学校教育局長 阿部生雄
発行所……筑波大学附属学校教育局 広報誌
ポローニア編集委員会
〒112-0006 東京都文京区小日向2-16-15 電話 03-3942-6800
編集委員長……田中輝美
編集委員……穴戸和成・木村範子・石川満佐育
河野雅昭・安藤隆男・藤田祐嗣
デザイン……スピーチ・バルーン
印刷……広研印刷 使用紙:U-Himax mm [日本製紙]

新たなステージに向けて

ポローニア paulownia



筑波大学附属学校教育局
http://www.gakko.otsuka.tsukuba.ac.jp/

vol.18